



全国大会「最優秀賞」に輝く

【一般女子初・二段の部】小栗紗希(55代OG)・力石和奏(3年次)組

in ふじのくに

「2024年少林寺拳法全国大会 in ふじのくに」が11月16日・17日、静岡県袋井市の「静岡県小笠山総合運動公園 エコパ」で開催され、専修大学(神奈川県代表)からは4人(2組)が出場した。

「女子初段二段の部」では小栗紗希・力石和奏拳士が最優秀賞を受賞。予選では点数が伸びず入賞は難しいと思われたが、2日目の決勝で前日の反省点を改善した結果、予選より5点加決して栄冠に輝いた。

「大学生男子の部」は、矢島莉歩・後藤祐希拳士が健闘。惜しくも決勝には届かなかったものの、完成度の高い演武を披露した。



「少林寺拳法全国大会 in ふじのくに」一般女子初・二段の部で「最優秀賞」に輝いた、55代・小栗OG(右)と3年次・力石拳士

●小栗OG 受賞コメント

最優秀と発表された瞬間、実感がないものとにかく嬉しい気持ちでした。私は社会人2年目ですが、専修大学支部として大会に出場しました。ペアの力石とは時間が合わない中、短期集中で演武を創り上げました。練習時間ですらずっと楽しく、一緒に頑張ってきた力石に感謝しかありません。

最優秀を獲得して感じたことは、自分が凄じいという自覚よりも、周りの方への感謝の気持ちです。大会後たくさんの方からご連絡を頂き、応援や支えの存在を改めて感じました。また自分達の結果や笑顔が、応援してくれている仲間や家族・先生方を笑顔にできる力があることに感激しました。

素敵な経験をさせて頂けたこと、応援・指導してくださった皆様に感謝申し上げます。



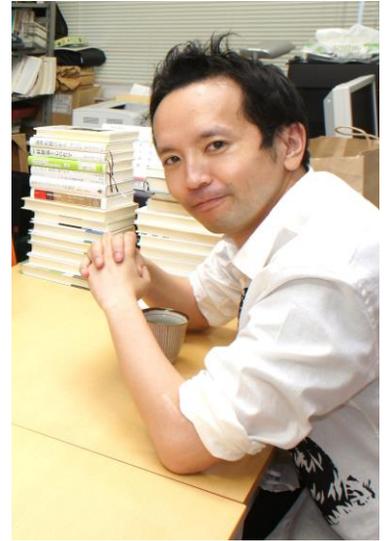
ご冥福をお祈りいたします

初代・志賀繁憲OB
(第2代OB緑拳会会長)
2024年12月8日ご逝去



緑拳会 会長
望月 卓視

あけましておめでとうございます。昨年は国内外から様々なニュースが飛び込んで来ましたが、緑拳会にとりまして色々な事があった一年でした。能登地震復興支援、現役部員の活躍、北陸支部総会、会長交代...。中でも卒業間もない平田OBの副会長就任、更に3名の若手OB OGがコーチに就任してくれたことは、特に大きなトピックだったと思います(執行部の平均年齢もグッと若返りました!)。今年はこのメンバーで、現役支援、六十周年準備を一層加速して行く所存です。巳年は(蛇が脱皮を繰り返すことから)成長や変革、再生を意味する年とされているそうです。技術革新や価値観の転換が高速で進む今の時代ですが、変化をポジティブに捉え、柔軟に対応して行けるように成りたいものです。最後になりますが、会員の皆さまが今年一年を健やかに過ごされますようお祈り申し上げます。



皆さん、こんにちは。このたび、二十年以上の長きにわたって部長を務めてこられた松原先生に代わって、新部長を務めさせていただきますことになりました、文学部の佐藤岳詩です。私自身は、少林寺拳法はもちろん武道全般にかかわったことが、これまでまったくなかったのですが、右も左も分らない状態からのスタートにはなってしまうますが、高い志をもって心身を磨き、技の研鑽に勤しむ皆さんのサポートを出来ましよう、全力を尽くさせていただきますだけ存じます。

私は北海道出身で、岩見沢市という道内でも有数の豪雪地帯で高校までを過ごしました。京都の大学を出た後、熊本大学に赴任し、その後、2020年に専修大学に着任いたしました。学生時代はずっとバレーボールをしていたので、身体を動かすことは好きな方ではありますが、拳法の経験はありません。ですので、松原先生から

ご連絡をいただいたときは、正直なところ、私で務まるだろうかと不安の方が勝っておりました。とはいえ、松原先生に部の歴史や先代部長の竹内先生のこと、在籍している学生さんやOBOGの皆さんについて丁寧に説明していただく中で、こうした伝統ある部に携わらせていただけることは、大変光栄なことだとも思うようになりました。偶然ではあるのですが、熊本時代の教え子にも、専修大学に来てからの教え子にも少林寺拳法に携わっている学生さんがいて、知らないなりに親近感があつたという理由もあり、今回、部長の任を承ることにいたしました。

研究者としての専門のことを申し上げますと、私は文学部の哲学科で倫理学の研究をしています。倫理とは人の道とも言われますが、人はいかに生きるべきかということとを問うのが倫理学という学問です。

現代社会においては、法律に違反していなければ何をしてもいいでしょう、と嘯く者もおりますが、私はそれでは足りないと考えます。少しでも善きものの方を目指し、日々の生活の細部に意識を凝らして誠実に暮らす中で、初めて私たちは心から楽しむべきものを楽しみ、怒るべきものに怒り、本当に納得した人生を送ることができないのではないのでしょうか。

とはいえ、言うは易く行は難しで、そ

のような生活を誰もが過ごすことができるわけではありません。私たちは誰しも自分に都合の良いように誤魔化しを行い、悪事に対しても見て見ぬふりをしてしまいます。私たちには何らかの手助けが必要です。そして、それは実のところ、先達の遺した伝統であったり、切磋琢磨する仲間存在であったりするのだと思います。仲間とともに伝統を引き受け、辛い修行を乗り越えた経験は、易きに流れることなく、前を向いて生きる自信を与えてくれるものです。

しかしながら、こうしたものは簡単に手に入るものではなく、さらには、それを維持するということには本当にひとかたならぬ苦労が必要です。だからこそ、様々な縁を通じて専修大学体育会少林寺拳法部の旗の下に集った皆さんが、単に自分の技術を磨けばいいということではなく、先輩、先輩、後輩との繋がりを大事にして、これまでに五十年以上の歴史を紡いでこられたことに、心より敬意を表するとともに、そのお手伝いをさせていただけることをとても嬉しく思っております。

松原先生と比べると見るからに大変頼りなく、先輩諸氏のお知恵をお借りする場面も多々あるかと存じますが、これからどうぞよろしくお願い申し上げます。

幹部交代式

生田キャンパス
「蒼翼の間」にて

2024年12月7日、生田キャンパス3号館「蒼翼の間」にて幹部交代式が行われ、58代に引き継がれました。また、本年度をもって専修大学国際コミュニケーション学部教授の退官に伴い、部長を退任される松原朗部長先生に、感謝の辞と花束が贈られました。



【58代】(左から) 力石、宮川、大貫、長島(円内)



58代主将 長島 元基

この度、58代主将を務めさせていただきましたことになりました長島元基と申します。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

平素より皆様から賜ります温かいご支援とご指導に、心より深謝申し上げます。組織として、部活として、57代の先輩方が築き上げた部の伝統と遺産を受け継ぎながらも、新たな風を吹き込み、より一層飛躍して参ります。

また、個人としては、修練への熱意、仲間たちへの感謝、そして大会への情熱や自己研鑽を絶やさずに、引退の日まで駆け抜けて参ります。

以上をもちまして、自分からの主将挨拶と今年の抱負のご挨拶とさせていただきます。



部長挨拶を終えて、現役からの花束贈呈に応える松原朗部長先生。20年以上にわたって専修大学体育会少林寺拳法部を支えて頂きました



「2024少林寺拳法全国大会 in ふじのくに」一般女子初・二段の部で「最優秀賞」に輝いた、小栗紗希OG(55代)・力石和奏(3年次)組に、望月会長から表彰状の授与

▶平田和輝副会長(56代OB)から現役部員に熱いエールが贈られた





恒例となった幹部交代式
当日の合同練習会。現役
の活躍ぶりを間近にしなが
ら、それぞれが現役時代
に思いをはせる時間。
左は部室の様子。



新任コーチ

小栗 紗希
55代 OG

現役を応援し、共に成長したい

今期から渡慶次コーチ・村本コーチと共にコーチを務めさせていただきます、55代OGの小栗です。コーチになった理由は、指導者として現役を応援したいからです。

現役の頃から抱いていた夢を、監督に直談判しました。役員・監督の皆様、この度はご快諾頂きありがとうございます。

私は専修大学少林寺拳法部での4年間で、たくさん成長させて頂きました。自分や他人との向き合い方や自信の付け方を学ぶきっかけが溢れている“部活”という存在に、今でも感謝しています。

現役には、社会に出るまでに部活を通じて、たくさんステップアップしてほしいと願います。そのために指導者という立場で現役の役に立てることが私の望みです。

私は少林寺拳法や社会人としても未熟者です。現役に指導するだけでなく現役からもたくさん刺激をもらい、共に成長していきます。

今後とも、どうぞよろしくお願い致します。



杉本空大57代主将（左）と力強い演武を披露してくれた小栗55代OG

